

今年も街に笑顔届け

液状化被害の我孫子

東日本大震災で液状化の被害を受けた我孫子市にある市立布佐中学校で、被災者らを勇気づけた吹奏楽部の春のコンサートが毎年開かれていた。今年も今月31日に予定されており、地元の人たちが楽しみにしている。

震災前年の2010年、同中の音楽教師だった青井眞吾さん(63)が「音楽を学校で聴いてもらおう」と体育館を使って初めて開催した。翌年も準備をしていたところ、震災で近くの我孫子市布佐東部地区は液状化の被害に見舞われ、家屋が大きく傾き、約120棟が全壊扱いとなった。

「今年の音楽会はだめかな」。コンサート中止が頭をよぎったが、保護者らから「やらなきゃだめ」「昨年のように音楽を聴かせてほしい」と励まされ、音楽の力で被災した人を元気づけたいと開催

布佐中吹奏楽部 31日、春のコンサート

津波被災地の岩手県陸前高田市と我孫子市に毎年寄付し続けていくる。石井美文校長は「部員の家族以外の人が多週前と厳しいスケジュールだったが、被災ユールだったが、被災した部員の母親たちも協力してくれて、体育館は約400人の観客で満席となった。」

その後、近くの二つの小学校と合同で開催されるようになり、コンサートで集めたお金は

津波被災地の岩手県陸前高田市と我孫子市に毎年寄付し続けていくる。石井美文校長は「部員の家族以外の人が多週前と厳しいスケジュールだったが、被災ユールだったが、被災した部員の母親たちも協力してくれて、体育館は約400人の観客で満席となった。」

【橋本利昭】